

林外相「科学的観点で対応」 原発処理水放出 王毅氏は批判

2023/7/15付 | 日本経済新聞 朝刊

【ジャカルタ=小林恵理香、田島如生】林芳正外相は14日、訪問先のジャカルタで中国の外交担当トップ、王毅（ワン・イー）共産党政治局員と65分ほど会談した。東京電力福島第1原子力発電所の処理水を巡り林氏は「科学的観点から意思疎通をする用意がある」と伝えた。（[関連記事総合2面に](#)）

王氏は海洋放出に反対する立場を改めて示した。中国外務省によると王氏は処理水を「核汚染水」と呼び、海洋放出は「海洋環境の安全と人類の生命・健康にかかわる」などと批判した。

海洋放出とは「異なる処理方法」を科学的に論証するよう求めた。「近隣諸国と十分に意思疎通し慎重に対応すべきだ」と述べた。

処理水の海洋放出は国際原子力機関（IAEA）が「国際的な安全基準に合致する」と結論づけた。林氏は中国もこの科学的根拠に基づき対応するよう重ねて要求し、政治問題にすることに反対すると言明した。

今年の日中平和友好条約締結から45年の節目にあたる。王氏は会談で関係改善に向けて「中国は各レベルでの接触継続や経済往来、文化交流にオープンだ」と語った。

林氏は「日中関係には様々な可能性があるが、数多くの課題や深刻な懸念もある。非常に重要な局面だ」と指摘した。

林氏は日本周辺で中国・ロシアの軍事活動が活発になっている点を危惧した。沖縄県・尖閣諸島周辺の海域で続く中国海警局の船の領海侵入にも「重大な懸念」を伝えた。中国当局による相次ぐ邦人拘束については早期の解放を求めた。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。